

令和3年度 全国学力・学習状況調査について

羽島郡二町教育委員会

1 はじめに

全国学力・学習状況調査は、平成19年度から実施されています（令和2年度は中止）。本年度も、小学校6年生、中学校3年生及び学校を対象として、5月27日（木）に実施しました。その結果についての報告と保護者の皆様にご協力をお願いしたいことをまとめました。

調査は「教科に関する調査」、「児童生徒を対象とした児童生徒質問紙調査」、「学校を対象とした学校質問紙調査」の3種類の調査が行われました。

2 調査内容

(1)教科に関する調査

小学校6年生は5年生までの学習内容、中学校3年生は2年生までの学習内容から出題されました。

□実施された科目と内容

国語、算数・数学

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践評価・改善する力 等

※問題数

小学校国語：14問 小学校算数：14問
中学校国語：14問 中学校数学：17問

(2)児童生徒を対象とした児童生徒質問紙調査

◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(例) 読書時間、家庭学習の状況、授業内容の理解度、生活習慣 など

(3)学校を対象とした学校質問紙調査

◇指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

3 調査結果より

(1)国語、算数・数学

- ・全国平均の正答率を基準に見ると、小学校の国語、算数、中学校の数学において、羽島郡の正答率は令和元年度より上昇している。
- ・全国平均の正答率を基準に見ると、小中学校の国語、算数・数学において、「記述式問題」での正答率に上昇が見られ、論理的な思考力が高まりつつある。
- ・国語では小中学校ともに、全国平均の正答率を基準に見ると、「話す」、「聞く」、「書く」、「読む」力がバランスよく身に付いている。ただし、特に小学校において、「言語の特徴や使い方に関する事項」（漢字の読み書き、文法、語句の使い方など）は課題である。
- ・算数・数学では小中学校ともに、全国平均の正答率を基準に見ると、「図形」領域に習熟の高さが見られる。ただし、特に小学校においては「数と計算」領域は課題である。

<成果○と課題△の具体>

| | 国語 | 算数・数学 |
|-----|--|--|
| 小学校 | <p>○目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える。</p> <p>○スピーチの練習で使った資料の目的を考える。</p> <p>○目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する。</p> <p>△<u>ころがっている</u>、<u>つみ重ね</u>（漢字で書く問題）。</p> <p>△文の中における主語と述語の関係を捉える。</p> <p>△文の中における修飾と被修飾の関係を捉える。</p> | <p>○二つの速さを求める式の意味について、正しいものを選ぶ。</p> <p>○二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く。</p> <p>△余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く。</p> <p>△8人に4Lのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く。</p> |
| 中学校 | <p>○話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える。</p> <p>○伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く。</p> <p>△文脈中の「呼吸をのみこんだ」の意味として適切なものを選ぶ。</p> <p>△「行く」を適切な敬語に直し、その敬語の種類を選ぶ。</p> | <p>○四角で4つの数を囲むとき、四角で囲んだ4つの数の和がどの位置にある二つの数の和の2倍であるかを説明する。</p> <p>○「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する。</p> <p>△与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する。</p> |

(2)児童生徒質問紙

<小学校>

- ・平成 29 年度からの変化を見ると、「人の役に立つ人間になりたいと思う」、「家で自分で計画を立てて勉強している」等の意識が年々高まってきている。一方で「将来の夢や目標をもっている」、「学校の授業時間以外での一日あたりの学習時間」はやや低くなってきている。
- ・令和元年度と比較すると、「人が困っているときは進んで助けている」、「学校に行くのは楽しい」、算数の学習で「あきらめずにいろいろな方法を考える」・「公式やきまりのわけを理解するようにしている」・「解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」等の意識が高まっている。一方で「自分にはよいところがあると思う」、「難しいことでも失敗を恐れないで挑戦している」、「新聞を読んでいる」は低くなってきている。

<中学校>

- ・平成 29 年度からの変化を見ると、「将来の夢や目標をもっている」、「いじめはどんな理由があってもいけない」、「人の役に立つ人間になりたい」、「家で自分で計画を立てて勉強している」、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」等の意識が年々高まってきている。一方で、「1日当たりの読書時間」、「新聞を読む」等は低くなってきている。
- ・令和元年度と比較すると、「将来の夢や目標をもっている」、「人が困っているときは進んで助ける」、「家で自分で計画を立てて勉強している」、「地域や社会をよくするために何をすべきか考える」、「授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」などの意識が高まっている。一方で「国語の授業で目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりしている」等は低くなってきている。

<その他>

- ・特に小学校では、「食事や就寝、起床」など家庭生活での生活に関わり、規則正しい生活をしている児童ほど正答率が高い。また、「自分にはよいところがある」、「人の役に立つ人間になりたい」と思っている児童ほど正答率が高い。
- ・「テレビゲーム(スマホ等のゲーム含む)やネットを使う時間が少ない」児童生徒ほど正答率が高い。
- ・「家で自分で計画を立てて勉強している」児童生徒ほど正答率が高い。
- ・授業で「自分の考えがうまく伝わるように、資料や文章、話の組み立て等を工夫して発表している」、「課題の解決に向け、自分で考え自分から取り組む」、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っている」、「学習内容について分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」という児童生徒ほど正答率が高い。
- ・「新型コロナウイルスの感染拡大で学校が休校していた期間中、勉強に不安を感じた」(①)児童生徒は全国平均と同程度である。休校期間中に「計画的に学習を続けることができて

いた」(②)、「規則正しい生活を送っていた」(③)という小学校児童は全国平均と同程度であり、中学校生徒は全国平均より多い。①については正答率との関連性はそれほど見られないが、②③についてはできていた児童生徒ほど正答率が高い。

4 学力向上に向けての羽島郡二町内の小中学校の取組

羽島郡内の小中学校では、学力の向上を目指して、次の二点について取り組んでいます。

- (1) 授業では、『羽島郡「授業マニフェスト4」』に取り組んでいます。
 - ・授業はチャイムで始め、チャイムで終わります。
 - ・子どもの話を最後まで聞きとります。
 - ・課題とまとめを丁寧な文字で書きます。
 - ・授業の最後に子どものよいところをほめます。
- (2) 各校の実態に応じて、毎年「指導改善プラン」を作成し、各校にて下記の内容について、工夫して取り組んでいます。
 - ・「A校内研究」、「B補充」(基礎・基本の定着)、「C家庭学習」、「D個別最適な学び」、「E協働的な学び」、「F授業マニフェスト4」

5 保護者の皆様へ

◇子どもは褒められて育ちます

子どもを褒める時には、家庭での過ごし方の約束を作ることが大切になります。家庭学習の時間、お手伝いの内容、スマホやパソコン(タブレット)の使い方などを決めて、必ずやりきらせて褒めましょう。時間やルールを守る生活をするとういことがあると、子どもたちが実感できるようにしたいです。そのために、やりきって褒められる生活サイクルを確立させましょう。

◇いつも成長の願いをもって見守ってください。

子どもに対して成長の願いをもって見守っていると、小さな成長や成果にも気がつくようになります。また、結果にはあられなかったことでも、努力した過程を認めることができます。そうすることで、期待に応えようとする前向きな心、自己肯定感が育ちます。

子どもには無限の可能性が秘められています。どの子もよりよく生きたいという願いをもって、その可能性や願いを秘めたままにせず、前を向いて、素直に歩む子どもになるよう育てていきましょう。